

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	田原市児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		～ 令和8年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		～ 令和8年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・田原市児童発達支援センターは、保育士、児童指導員、言語聴覚士、理学療法士、臨床心理士、看護師、相談支援専門員、調理員等があり、様々な専門性を持ったチームアプローチが可能であることが強み。	・利用者の方やその保護者の方々に様々な職種が関わり、それぞれの専門性からサポートを行えるように、随時相談できるような体制を整えている。	・チームアプローチの充実や受け入れられる児童の幅を拡げるために必要な専門職の確保をさらに検討している。
2	・丁寧な支援計画に基づいた発達支援。	・児童発達支援計画を作成する際に、各種専門職も参加し、それぞれの専門性から話し合い、支援計画や支援方法を検討し、実践している。 ・児童発達支援計画の様式は様々な発達領域を網羅できるようにしている。	・現場の担当職員だけでなく、様々な職種の職員が現場に入ることにより、さまざまなアプローチからの実践が実施できるようにしていく。
3	・親子通園と単独通園の2つの通園スタイルがあり、家族のニーズに合わせた家族支援が行いやすい。	・親子通園では日ごろから保護者の方々とコミュニケーションをとったり、定期的に相談・面談を行ったりして、随時、家族のニーズを把握している。 ・保護者がどのようなことでも話せるように、話しやすい雰囲気をつくるように努めている。 ・親同士の交流会の時間、リラックスできる時間を設けている。	・他の家族も来やすくなるようなイベント、行事などをさらに検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・きょうだい支援の充実。	・どのようなことがきょうだい支援の充実につながるのかについての理解が十分ではないこと。	・夏休み期間に小学生でも参加しやすいイベントを行う。
2	・施設の老朽化やバリアフリー化が不十分であること。	・廃園した保育園を再利用しているため、老朽化が激しく、バリアフリー化されていない箇所がある。	・限りある予算の中で少しずつ修繕を行っている。障害福祉施設として、充実した施設を今後も目指したい。
3	・他の保育園の児童と交流するなどの、地域に開かれた事業所運営。	・近く(歩いて行ける距離)に保育園がなく、交流が生まれにくい(立地の問題)。 ・はじめての人や場所への慣れにくさのあるお子さんもいるため、交流が持ちにくい。	・他園の遠足に同行できないか検討し、交流できそうな機会を模索する。また、児童が交流する場(児童館や交流館等)に遠足に行くことを検討する。